

アスファルト混合物報告書

2024年2月27日

様

製造会社

所在地 鳥取県米子市古豊千372

工場名 米子舗材株式会社

配合の設計条件				
混合物の種別	骨材の最大寸法	基準密度	混合温度	
再生粗粒度アスコン(20)	20 mm	2.404 g/cm ³	157 °C	
空隙率	飽和度	安定度	フロー値	
3.8 %	75.3 %	9.20 kN	32 1/100cm	
D S 値				
—				
回/mm				
使用材料及び配合表				
使用材料名	産地名	生産者名	配合率(%)	備考
ストレートアスファルト(80~100)	岡山県倉敷市水島	ENEOS(株)	2.30	OAC5.0
石粉	岡山県新見市足立	足立石灰工業(株)	1.0	
砕石5号	岡山県久米郡久米南町	坂田砕石工業(株)	17.1	
砕石6号			12.4	
砕石6号	鳥取県日野郡日野町	(株)ケイナン	6.6	
砕石7号	岡山県久米郡久米南町	坂田砕石工業(株)	4.8	
砕砂			1.9	
粗砂	島根県安来市広瀬町	(有)越野組	1.9	
細砂	鳥取県東伯郡北栄町	(有)きのえ	1.9	
再生骨材	鳥取県東伯郡北栄町	(有)きのえ	50.0	
再生用添加剤	—	三徳アスリード(株)	0.19	
※再生アスファルト配合率の計算				
旧As=2.51% 再生用添加剤=0.19% 新As=2.30%				
最適As量(OAC)時の再生アスファルト配合率= 2.51 + 0.19 + 2.30 = 5.0%				

アスファルト混合物配合設計報告書

混合物： 再生粗粒度アスコン(20)

2024年 2月

米子舗材 株式会社

アスファルト混合物配合設計総括表

報告年月日 2024年 2月19日

混合物の種類 再生粗粒度アスコン(20)

報告者 村島 誠治

1. 使用材料の種類及び産地

材料の種類	製造会社名	産地	材質
5号砕石	坂田砕石工業株式会社	岡山県久米郡久米南町	硬質粘板岩
6号砕石	坂田砕石工業株式会社	岡山県久米郡久米南町	硬質粘板岩
6号砕石(ケイナン)	株式会社ケイナン	鳥取県日野郡日野町	硬質粘板岩
7号砕石	坂田砕石工業株式会社	岡山県久米郡久米南町	硬質粘板岩
砕 砂	坂田砕石工業株式会社	岡山県久米郡久米南町	硬質粘板岩
粗 砂	有限会社越野組	島根県能義郡広瀬町	丘 砂
細 砂	有限会社きのえ	鳥取県東伯郡北栄町	丘 砂
再生骨材(13~0)	有限会社きのえ	西伯郡大山町羽田井	再生骨材
石 粉	足立石灰工業株式会社	岡山県新見市足立	炭酸カルシウム
ストレートAs80-100	ENEOS株式会社	岡山県倉敷市水島	舗装用石油As
RJ-1	三徳アスリード株式会社	大阪府大阪市淀川区	再生用添加剤

2. 使用骨材の配合割合

材 料	5号砕石	6号砕石	6号砕石(ケイナン)	7号砕石	砕 砂	粗 砂	細 砂	再生骨材(13~0)	石 粉		計
配合割合%	18.0	13.0	7.0	5.0	2.0	2.0	2.0	50.0	1.0		100.0

3. 合成粒度

ふるい目	53mm	37.5	31.5	26.5	19	13.2	9.5	4.75	2.36	1.18	600μm	300	150	75
通過質量百分率%				100.0	99.5	82.6		45.0	28.8		18.0	10.6	6.9	5.6
粒度範囲	上限			100	100	90		55	35		23	16	12	7
	下限			100	95	70		35	20		11	5	4	2

4. 設計アスファルト量の決定

試験項目	最適AS量(%)	密度(g/cm ³)	理論密度(g/cm ³)	空隙率(%)	飽和度(%)	安定度(kN)	フロー(1/100cm)	残留安定度(%)
試験値	5.0	2.404	2.500	3.8	75.3	9.20	32	90.0
基準値	上限	—	—	7.0	85.0	—	40	—
	下限	—	—	3.0	65.0	4.90以上	20	75.0以上

使用アスファルト性状表

目的 配合設計

試験年月日 2024年 2月19日

混合物の種類 再生粗粒度アスコン(20)

試験者 村島 誠治

＜使用するアスファルトの性状＞

種類・品名		ストレートAs80-100	
項目		試験値	規格値
針入度(25℃)	(1/10mm)	84	80~100
軟化点	(℃)	47.0	42.0~50.0
伸度(15℃)	(cm)	140+	100以上
トルエン可溶分	(%)	99.94	99.00以上
引火点	(℃)	366	260以上
薄膜加熱質量変化率	(%)	0.07	0.60以下
薄膜加熱針入度残留率	(%)	71.1	50.0以上
蒸発後の針入度比	(%)	0.0	110.0以下
密度(15℃)	(g/cm ³)	1.035	1.000以上
マーシャル最適混合温度範囲	(℃)	149~154	---
マーシャル最適締固め温度範囲	(℃)	138~142	---

アスファルト混合物の配合設計

目的 配合設計 (室内)

試験年月日 2024年 2月19日

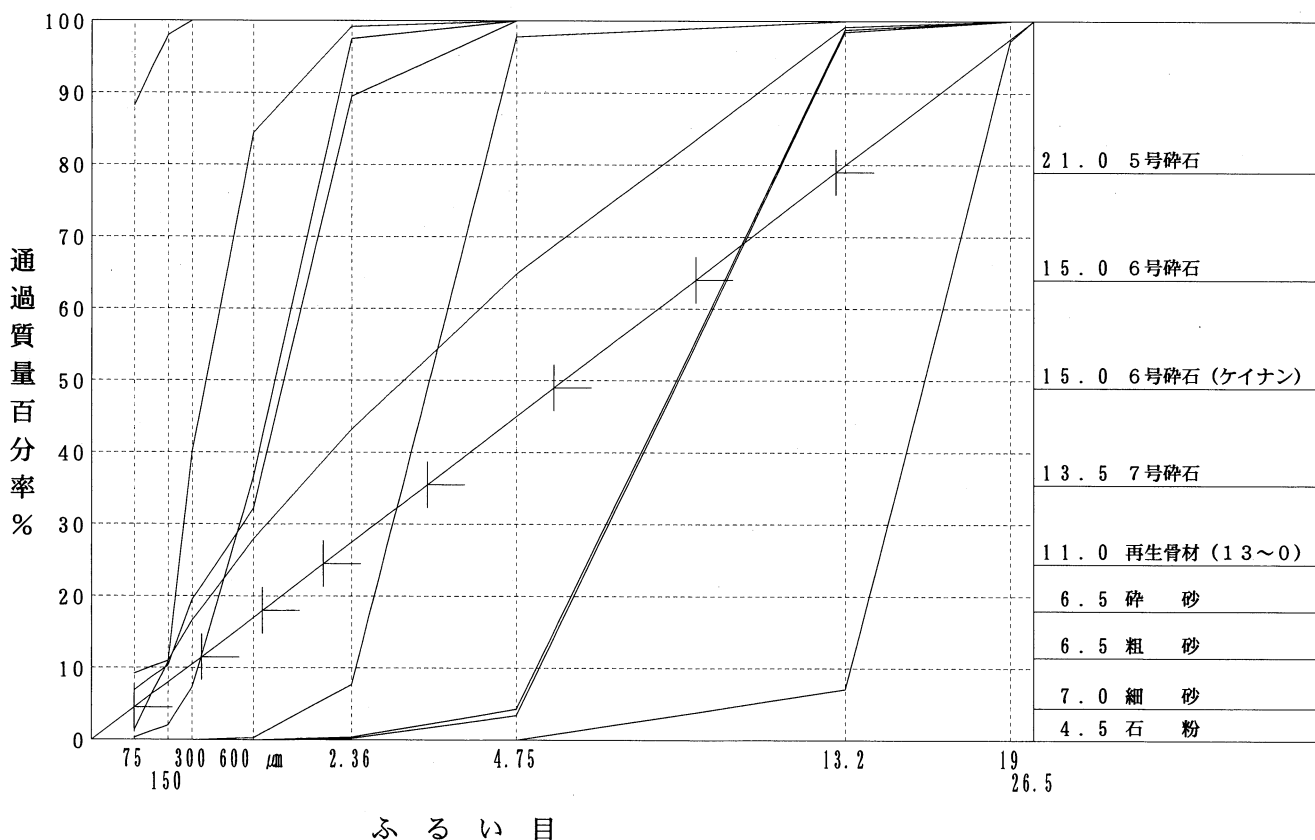
混合物の種類 再生粗粒度アスコン(20)

試験者 村島 誠治

1. 使用予定骨材のふるい分け試験結果

フルイ目	使用予定骨材の通過質量百分率 (%)								目標粒度	
	5号碎石	6号碎石	6号碎石 (ケイナン)	7号碎石	砕砂	粗砂	細砂	再生骨材 (13~0)		石粉
53 mm										
37.5										
31.5										
26.5	100.0									100.0
19	97.2	100.0	100.0					100.0		97.5
13.2	7.1	98.5	98.8	100.0				99.2		80.0
9.5										
4.75		3.4	4.3	97.8	100.0	100.0	100.0	64.8		45.0
2.36		0.2	0.4	7.7	89.5	97.5	99.2	43.2		27.5
1.18										
600 μm				0.3	32.2	36.6	84.4	27.9		17.0
300					19.5	7.3	40.1	16.6	100.0	10.5
150					10.3	2.0	10.8	11.0	98.0	8.0
75					6.9	0.3	1.3	9.2	88.2	4.5

2. 使用予定骨材の配合比決定図



骨材の粒径加積曲線図

目的 配合設計 (室内)

試験年月日 2024年 2月19日

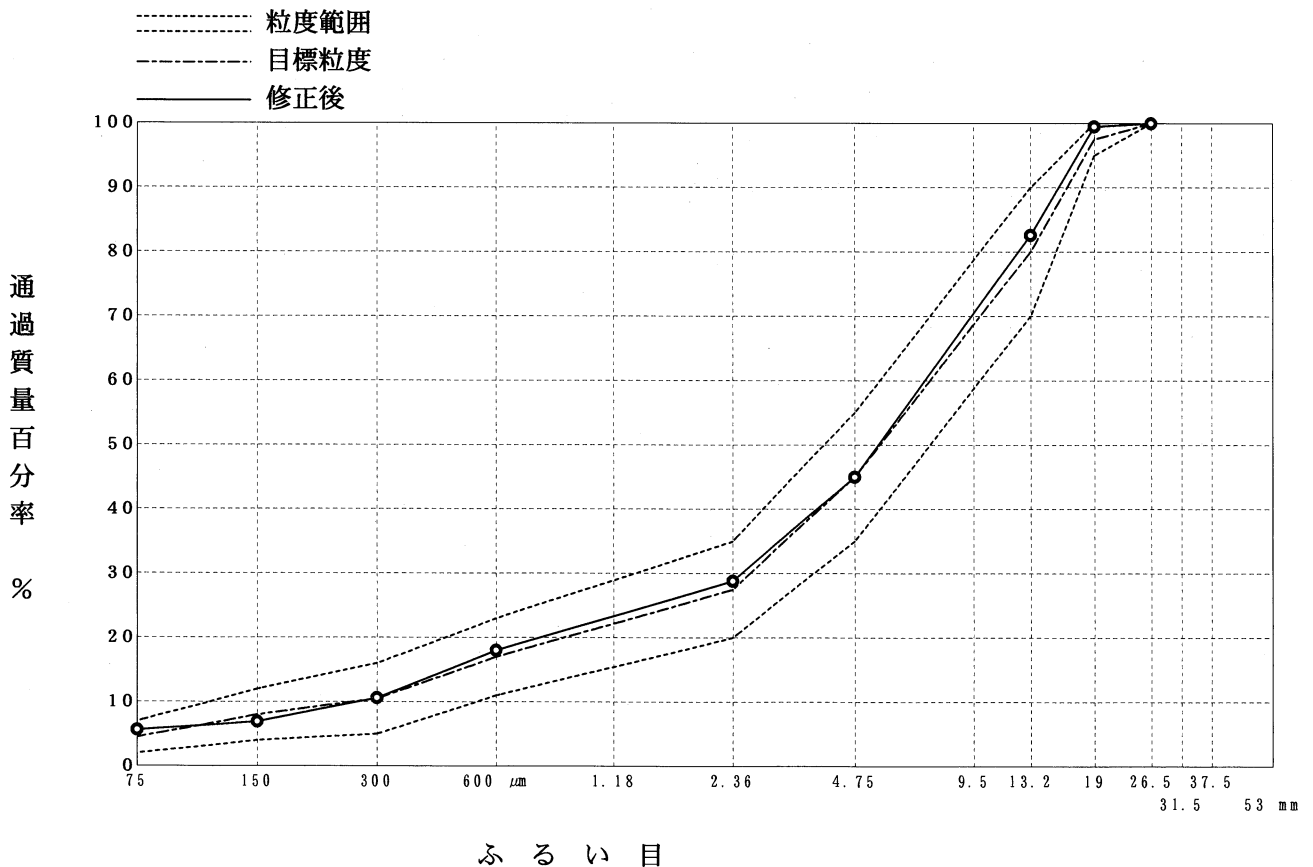
混合物の種類 再生粗粒度アスコン(20)

試験者 村島 誠治

5. 合成粒度

ふるい目	合成粒度		目標粒度	粒度範囲
	作図法	修正後		
53 mm				
37.5				
31.5				
26.5	100.0	100.0	100.0	100
19	99.4	99.5	97.5	95 ~ 100
13.2	80.0	82.6	80.0	70 ~ 90
9.5				
4.75	45.9	45.0	45.0	35 ~ 55
2.36	29.4	28.8	27.5	20 ~ 35
1.18				
600 μm	18.0	18.0	17.0	11 ~ 23
300	10.9	10.6	10.5	5 ~ 16
150	7.2	6.9	8.0	4 ~ 12
75	5.5	5.6	4.5	2 ~ 7

6. 粒径加積曲線図



再生骨材の性状試験結果

目的 配合設計

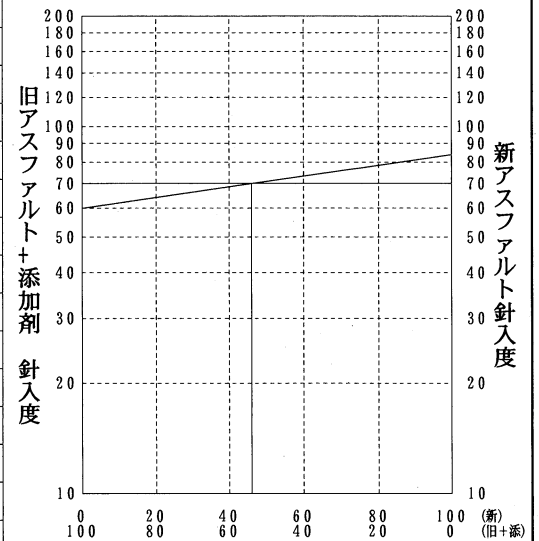
試験年月日 2024年 2月19日

混合物の種類 再生粗粒度アスコン(20)

試験者 村島 誠治

試験項目	材料名	再生骨材 (13~0)	規格値
通過質量百分率%	53 mm		
	37.5		
	31.5		
	26.5		
	19	100.0	
	13.2	99.2	
	9.5		
	4.75	64.8	
	2.36	43.2	
	1.18		
	600 μm	27.9	
	300	16.6	
	150	11.0	
75	9.2		
旧アスファルト含有率 %		5.01	3.8以上
旧アスファルト針入度(25℃) 1/10mm		28	20以上
微粒分量試験による損失量 %		1.6	5以下
最大密度		2.498	

[添加剤+旧アスファルト] - [新アスファルト] 針入度関係図



旧As+添加剤:新As=54.0 : 46.0
上記比率で設計針入度を満たす「旧As+添加剤」針入度=60

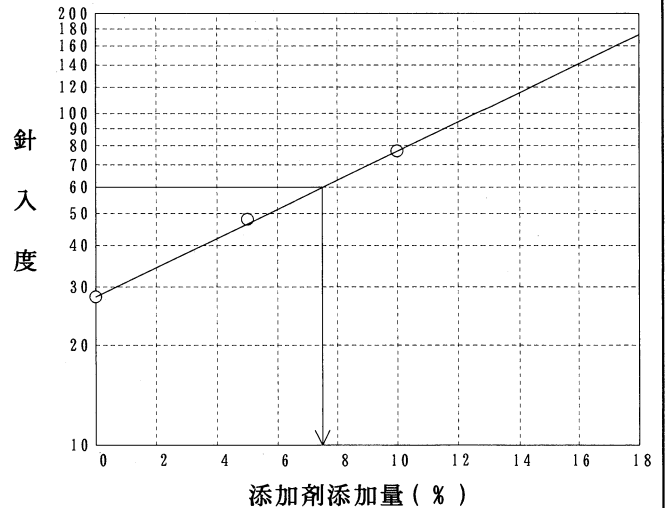


再生添加剤の性状

項目	試験値	標準的性状
動粘度 (60℃) mm ² /s	86.3	80~1000
引火点 ℃	258	250以上
薄膜加熱後の粘度比 (60℃)	1.08	2以下
薄膜加熱質量変化率 %	-0.72	±3%以内
密度 (15℃) g/cm ³	0.927	

針入度と添加剤添加量の関係

添加剤量 (%)	0	5	10
針入度 (1/10mm)	28	48	77



目標針入度になる添加剤量	
対アスファルト	対混合物
7.50	0.20

マーシャル試験最適混合温度℃

マーシャル試験最適締固温度℃

理論最大密度計算表

目的 配合設計

試験年月日 2024年 2月19日

混合物の種類 再生粗粒度アスコン(20)

試験者 村島 誠治

骨材の種類	A 骨材のみ	B (旧アスファルト含む)					
5号碎石	18.0	18.00					
6号碎石	13.0	13.00					
6号碎石 (ケイナン)	7.0	7.00					
7号碎石	5.0	5.00					
砕 砂	2.0	2.00					
粗 砂	2.0	2.00					
細 砂	2.0	2.00					
再生骨材 (13~0)	50.0	52.64					
石 粉	1.0	1.00					
計	100.0	102.64					
設 計 針 入 度 1/10mm		70					
旧 A s + 添加剤 針入度 1/10mm		60					
旧 ア ス フ ァ ル ト 量 (外割%)		2.64					
再生用添加剤量 (対アスファルト量) %		7.50					
再生用添加剤量 (対再生混合物) (外割%)		0.20					
再生アスファルト量 (%)	4.0	4.5	5.0	5.5	6.0		5.0
再生アスファルト量 (外割%)	4.17	4.71	5.26	5.82	6.38		5.26
旧アスファルト量 (外割%)	2.64	2.64	2.64	2.64	2.64		2.64
再生用添加剤量 (外割%)	0.20	0.20	0.20	0.20	0.20		0.20
新アスファルト量 (外割%)	1.33	1.87	2.42	2.98	3.54		2.42

理論最大密度計算表

目的 配合設計

試験年月日 2024年 2月19日

混合物の種類 再生粗粒度アスコン(20)

試験者 村島 誠治

① 骨材の種類	② 配合率(%)	③ 骨材の密度 (g/cm ³)			④ 計算に用いる密度	⑤ ②/④
		表 乾	か さ	見 掛		
5号碎石	18.00	2.697	2.683	2.721	2.721	6.615
6号碎石	13.00	2.690	2.676	2.716	2.716	4.786
6号碎石(ケイナン)	7.00	2.658	2.632	2.702	2.702	2.591
7号碎石	5.00	2.674	2.652	2.711	2.711	1.844
碎 砂	2.00	2.650	2.611	2.716	2.716	0.736
粗 砂	2.00	2.549	2.502	2.624	2.624	0.762
細 砂	2.00	2.497	2.451	2.567	2.567	0.779
再生骨材(13~0)	52.64				2.498	21.073
石 粉	1.00			2.700	2.700	0.370
RJ-1	0.20				0.927	0.216
	Σ②= 102.84				Σ⑤=	39.772

⑥ アスファルト量 (%)	⑦ アスファルトの密度	⑧ ⑥/⑦	⑨ Σ⑤	⑩ ⑧+⑨	⑪ 理論最大密度 (Σ②+⑥)/⑩	
1.33	1.035	1.285	39.772	41.057	2.537	
1.87		1.807	39.772	41.579	2.518	
2.42		2.338	39.772	42.110	2.500	
2.98		2.879	39.772	42.651	2.481	
3.54		3.420	39.772	43.192	2.463	
2.42		2.338	39.772	42.110	2.500	

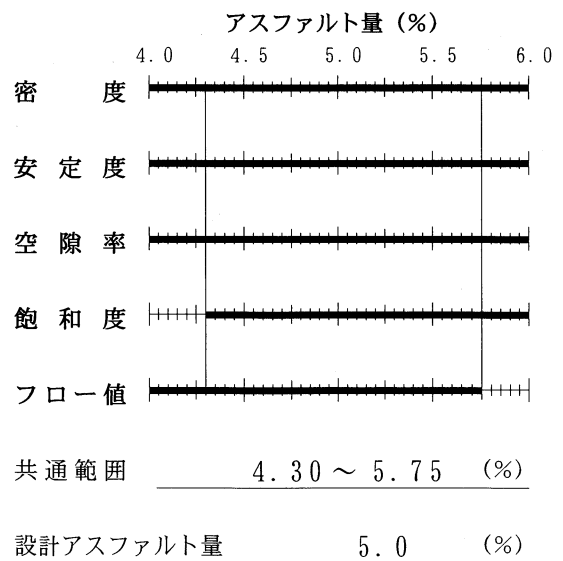
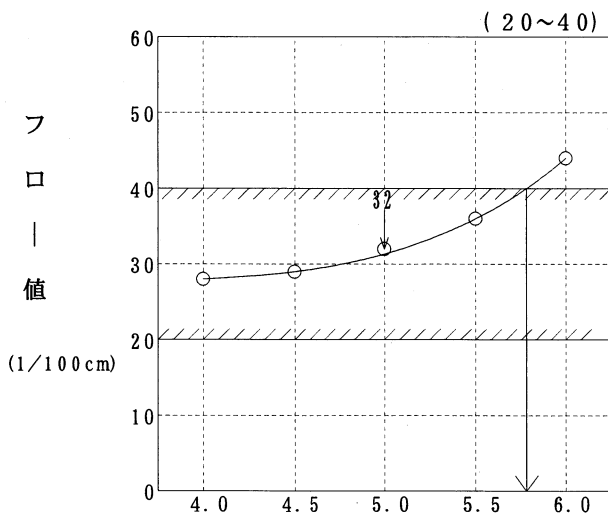
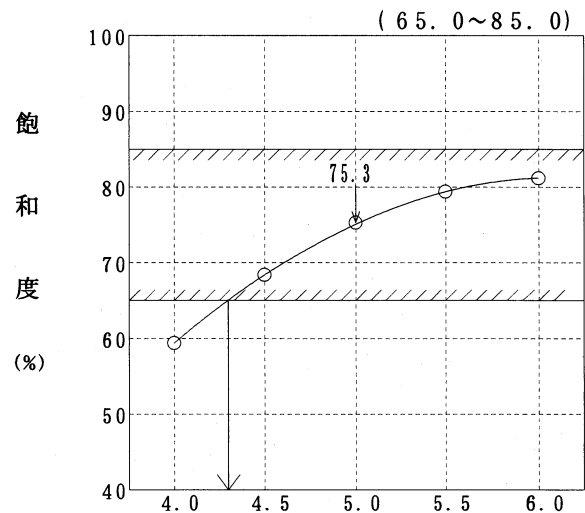
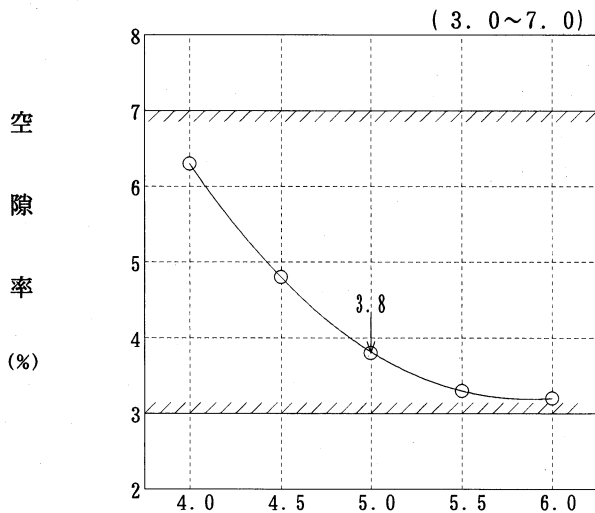
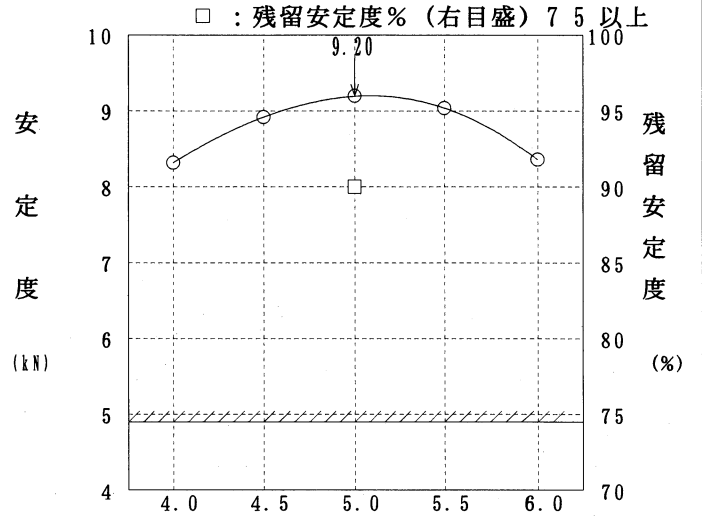
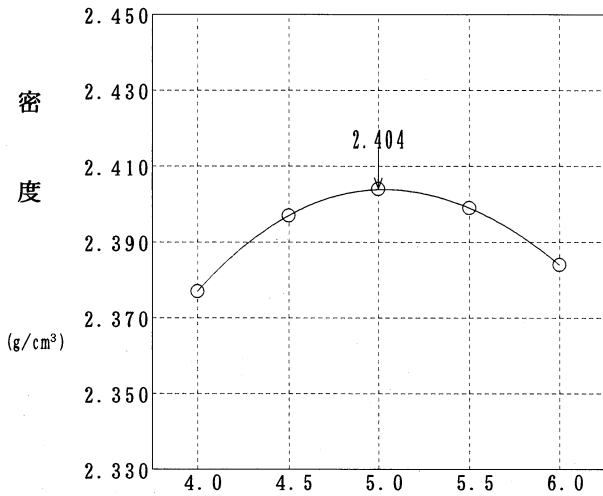
設計アスファルト量の決定

目的 配合設計 (室内)

試験年月日 2024年 2月19日

混合物の種類 再生粗粒度アスコン(20)

試験者 村島 誠治



アスファルト量 (%)

ホットビンの合成粒度

目的 配合設計 (現場)

試験年月日 2024年 2月19日

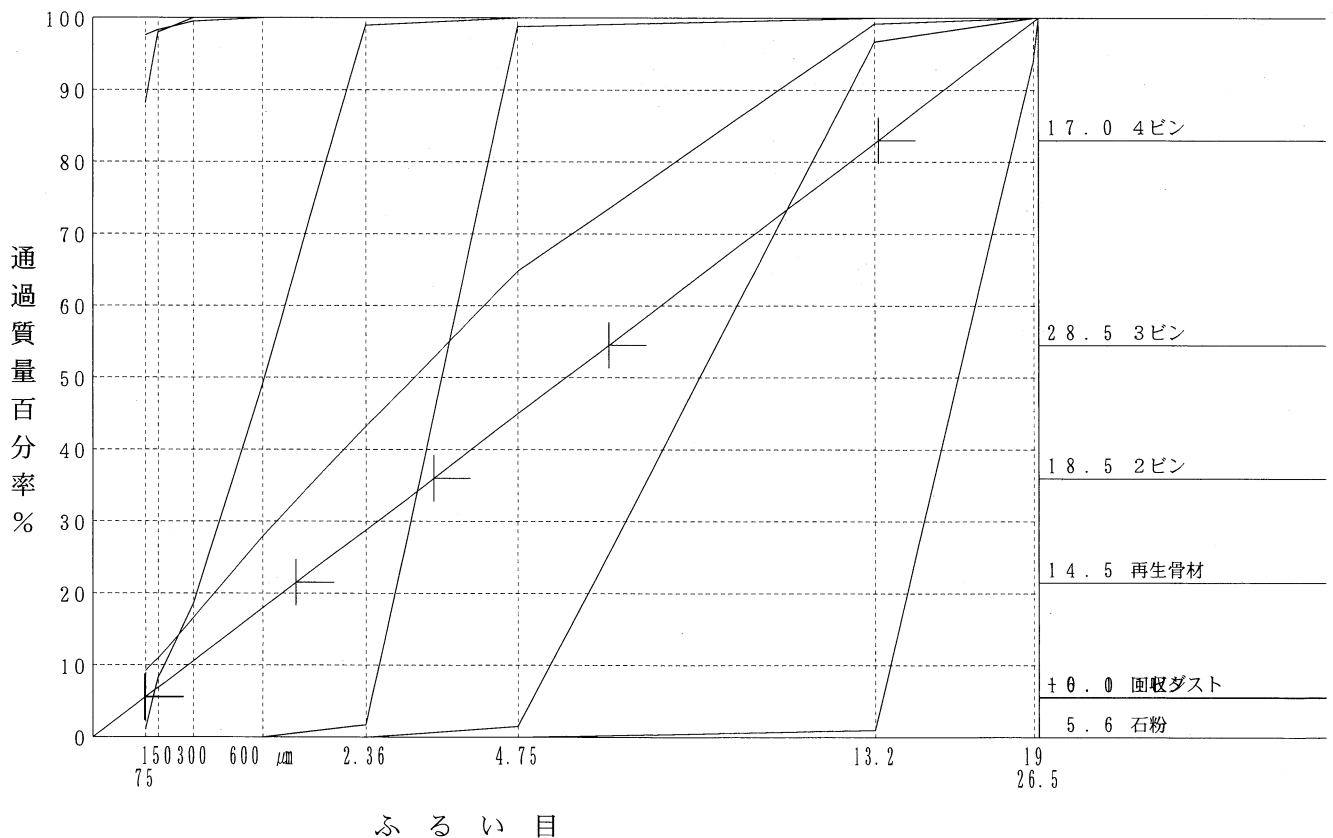
混合物の種類 再生粗粒度アスコン(20)

試験者 村島 誠治

1. 使用予定骨材のふるい分け試験結果

フルイ目	使用予定骨材の通過質量百分率 (%)							設計粒度	
	5ピン	4ピン	3ピン	2ピン	1ピン	再生骨材	回収ダスト		石粉
53 mm									
37.5									
31.5									
26.5		100.0							100.0
19		94.0	100.0			100.0			99.5
13.2		1.0	96.7	100.0		99.2			82.6
9.5									
4.75			1.5	98.8	100.0	64.8			45.0
2.36				1.7	99.0	43.2			28.8
1.18									
600 μm					49.1	27.9	100.0		18.0
300					18.6	16.6	99.5	100.0	10.6
150					8.3	11.0	98.3	98.0	6.9
75					1.1	9.2	97.6	88.2	5.6

2. 使用予定骨材の配合比決定図



ホットビンの粒径加積曲線図

目的 配合設計（現場）

試験年月日 2024年 2月19日

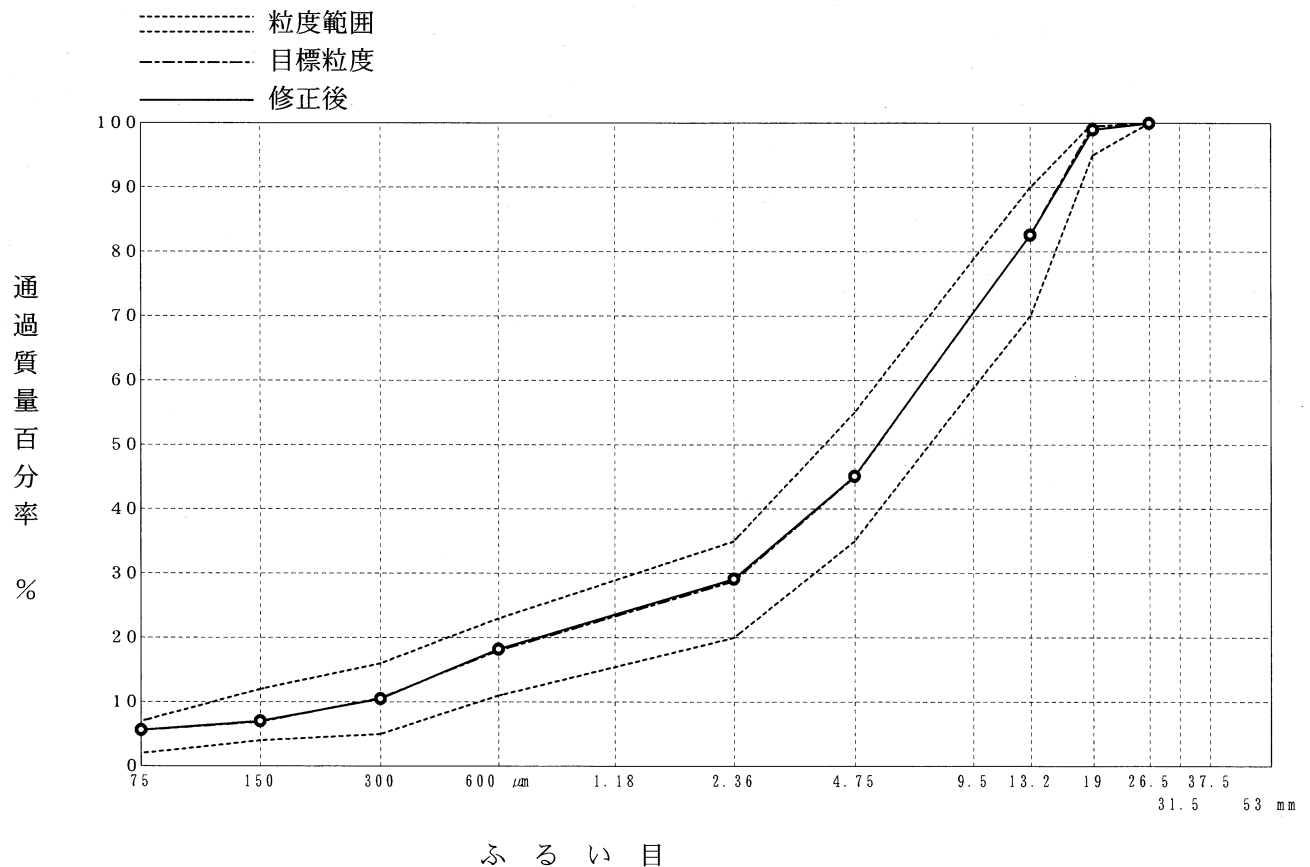
混合物の種類 再生粗粒度アスコン(20)

試験者 村島 誠治

5. 合成粒度

ふるい目	合成粒度		目標粒度	粒度範囲
	作図法	修正後		
53 mm				
37.5				
31.5				
26.5	100.0	100.0	100.0	100
19	99.0	99.0	99.5	95 ~ 100
13.2	82.2	82.6	82.6	70 ~ 90
9.5				
4.75	49.6	45.1	45.0	35 ~ 55
2.36	27.9	29.1	28.8	20 ~ 35
1.18				
600 μm	17.4	18.2	18.0	11 ~ 23
300	10.9	10.5	10.6	5 ~ 16
150	8.3	7.0	6.9	4 ~ 12
75	6.3	5.6	5.6	2 ~ 7

6. 粒径加積曲線図



理論最大密度計算表

目的配合設計

試験年月日 2024年 2月19日

混合物の種類 再生粗粒度アスコン(20)

試験者 村島 誠治

骨材の種類	A 骨材のみ	B (旧アスファルト含む)
5号碎石	18.0	18.00
6号碎石	13.0	13.00
6号碎石 (ケイナン)	7.0	7.00
7号碎石	5.0	5.00
砕 砂	2.0	2.00
粗 砂	2.0	2.00
細 砂	2.0	2.00
再生骨材 (13~0)	50.0	52.64
石 粉	1.0	1.00
計	100.0	102.64
設計針入度 1/10mm		60
旧アスファルト量 (外割%)		2.64
再生用添加剤量 (対アスファルト量) %		7.50
再生用添加剤量 (対再生混合物) (外割%)		0.20

再生アスファルト量 (%)	5.0						
再生アスファルト量 (外割%)	5.26						
旧アスファルト量 (外割%)	2.64						
再生用添加剤量 (外割%)	0.20						
新アスファルト量 (外割%)	2.42						

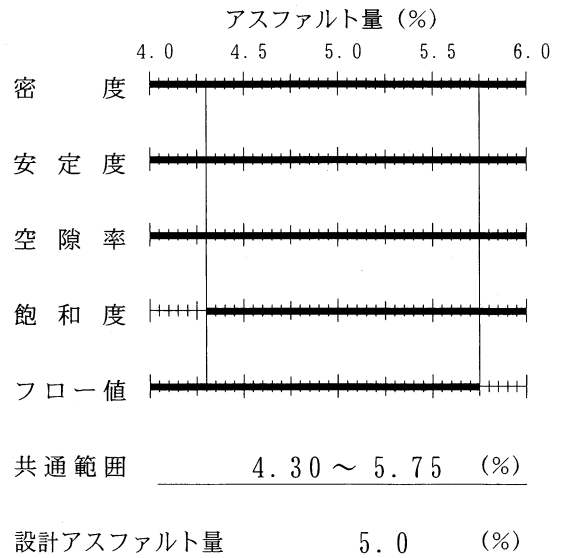
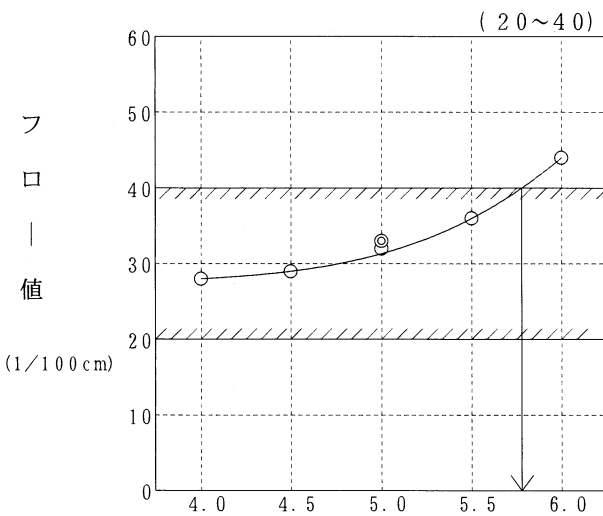
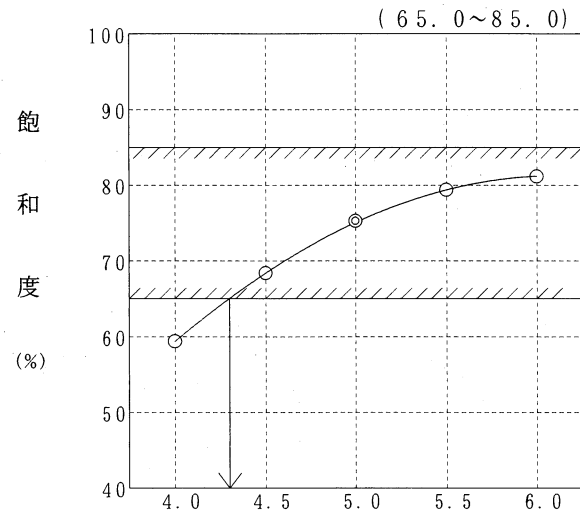
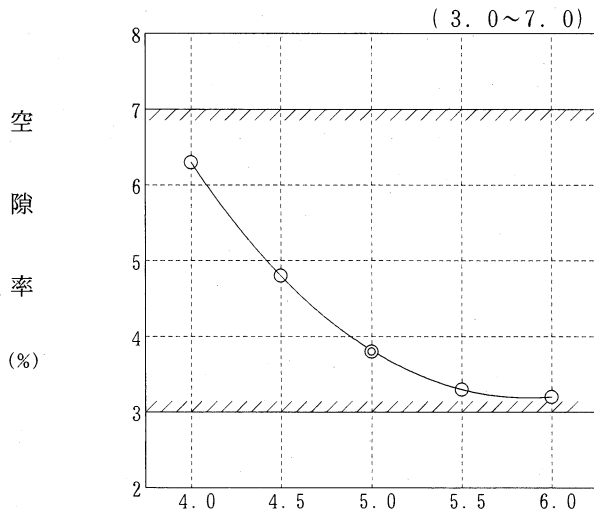
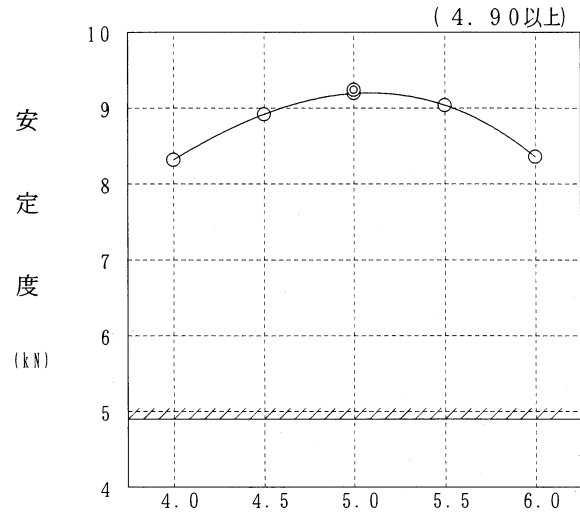
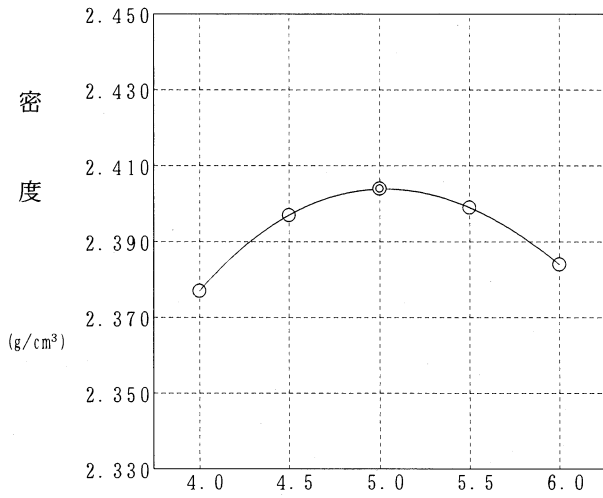
マーシャル安定度試験

目的 配合設計 (現場)

試験年月日 2024年 2月19日

混合物の種類 再生粗粒度アスコン(20)

試験者 村島 誠治



アスファルト量 (%)

現場配合の決定

目的配合設計

試験年月日 2024年 2月19日

混合物の種類 再生粗粒度アスコン(20)

試験者 村島 誠治

1バッチ 1000 kg

	骨材配合比(%)	外割配合比(%)	内割配合比(%)	1バッチ質量(kg)	骨材累加質量(kg)	
4	ピ ン	16.5	16.50	15.68	157	466
3	ピ ン	21.0	21.00	19.93	199	309
2	ピ ン	5.0	5.00	4.75	48	110
1	ピ ン	6.5	6.50	6.18	62	62
	再 生 骨 材	50.0	52.64	50.01	502	968
	回 収 ダ ス ト	0.5	0.50	0.48	5	973
	石 粉	0.5	0.50	0.48	4.8	4.8
	旧 ア ス フ ェ ル ト		(2.64)	(2.51)		
	再 生 用 添 加 剤		0.20	0.19		
	新 ア ス フ ェ ル ト		2.42	2.30	23.0	23.0
	合 計	100.0	105.26	100.00	1000.8	1000.8

※添加剤はドライヤ内添加のため
再生材の計量値に含まれます。

- (1) 混 合 温 度・・・・・・・・・・ 混合温度は185℃を超えない範囲でアスファルトの動粘度
160～200cSt (セイボルトフロール秒75-95)
のときの温度範囲から選り 157 ℃とする。
- (2) 再生骨材加熱温度・・・・・・・・ 加熱温度による旧アスファルトの劣化を防ぐ目的に
より 150 ℃とする。
- (3) 骨材加熱温度・・・・・・・・・・ 混合温度より 30 ℃高くして 187 ℃とする。
- (4) アスファルト加熱温度・・・・・・・・ 混合温度と同じ 157 ℃とする。
- (5) 初期転圧温度・・・・・・・・・・ 転圧温度は再生アスファルトの性状により 145 ℃とする。